

## 序

東京都健康安全研究センターは都民の生命と健康を守るための科学的・技術的拠点として、感染症のまん延防止や食品、飲用水、医薬品及び生活環境等の安全確保のための試験検査に加え、食品や環境、医薬品の監視指導等を行っています。

こうした機能をより一層強化していくために、平常時から試験検査の精度管理に努めるだけでなく、試験検査の効率性や迅速性、正確性などを高めたり、新しい検査法を開発するための研究を行うことも当センターの重要な役割の一つです。さらに、都民の健康に対する未知の脅威を早期に発見し、必要な措置を講じ予防するための研究も併せて行っています。

本研究年報は、平成28年度に当センターが取り組んだ研究の成果をまとめたものです。この中には、「東京都におけるカンピロバクター食中毒」及び「危険ドラッグの生体影響を評価するための新たな試験方法」の2本の総説をはじめ、7分野の全39題の論文を掲載しました。

こうした研究の成果は、当センターの財産であると同時に、他の施設にも参考にしていただきたいと考えており、本冊子のほか当センターのホームページ上でも公表しています。関係者の皆様には、是非、ご活用いただくとともに、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。当センターとしては、今後もこうした研究を積み重ねることで、東京都の危機管理対応力の向上に取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

平成30年3月

東京都健康安全研究センター所長  
大 井 洋

